



## 夢を追う



大垣電機株式会社 取締役会長 梅村明正

「工場の美化—楽しく働ける作業環境を作りたい」

この夢の実現に渾身の努力を続けて居る毎日です。嘗て工場用地を摸索し始めたとき幸いなる哉33000㎡の農地処分の情報が入って来た。昭和47年9月6日清水養老町長、川口社長殿ご臨席で工場用地買収の調印式を迎えた。あの時の感激は忘れられない。責任の重大さが厳粛に込み上げて来ると共に十分皆様のご期待に応える事を心に誓った。

この直後社団法人日本電設工業協会主催のソ連東欧視察団に参加して社会主義諸国を見聞し、自由経済諸国の繁栄特に物量の豊富さには比較にならない格差が有り、今さらの様に日本の有難さをしみじみ味わった。またその折り、ある工場を見学する機会を得たが、10年以上遅れた機械、工場雰囲気の暗さ、働く者の生産意欲のみられない有様などまのあたりにしたとき、「楽しく働ける作業環境」の大切さを痛感し夢を実現しなければならないと強く思った。

さて農地転用許可には想像以上の難関があり、三年余の折衝が続いた。至誠通天というか農振法適用という恩典つきでお許しが出了。主製品の高圧開閉器はOSからAS、VSそしてガス封入へと急速に製品開発が進み、またその関連機器への拡大と夢を膨らます機会に恵まれることになった。特に電力会社殿の配電線自動化への参入は大きな自信に繋がった。装柱美化から始まった制御電源変圧器開発もその利用効果が認められ、数量的に企業規模拡大に寄与しつつある。

続いて昭和57年8月24日社団法人日本電気協会のキュービクル式高圧受電設備の推奨登録メーカーとなり、高圧受電設備の安全確保、波及事故の防止、技術水準の向上を旨とした。この制度発足から満20周年をむかえ、去る平成元年7月14日田中精一同協会会長殿からこの制度の普及に協力した実績が認められ、感謝状と表彰楯を戴き最高の荣誉と感謝して居ります。

産業構造は大きく変化しつつあり、発想の転換といったソフトが重要な時代となって来た。過去のハードの時代からソフトの時代となって、特に労働力不足は深刻であり、高度工業化社会の達成により、モノの豊富さから来る「量的拡大」よりも生活の「質的変換」が現実の要求となって、労働時間の短縮、レジャーの増大が望まれ、企業経営に大きな影響を及ぼして来居る。生産方式にしても小品種大量生産から多品種少量型に変わり、然も短納期が要求され、ユーザーニーズに即応できる体制作りが必要になって来た。新しい人材確保は勿論であるが、工場設備のソフト化、即ち、数値制御の最大利用、作業のロボット化による生産意欲の向上、事務処理にしてもOA機器等の導入により徹底した合理化、省力化を計り、従業員の創造的な仕事出来るようにし、更に社員教育の充実、改善提案など知的生産を高めさせ、自らの手で新設備の導入や作業改善を図って、快適な作業環境を実現させたい。

馬齢すでに喜寿を過ぎ、いつも大切に居る臨濟禅師の「随処作主」の訓えを常に思い出している。お互いは礼を尊び組織内では厳然たるルールに従うよう主体性をもって行動し、価値観を高め、いつ、どこでもなくてはならない大事な、然も貴重な存在になるよう精進して行きたい。それには健康保持が大切である。そのためにいろんな趣味にも挑戦して行きたいものだ。

念願のショールーム、研修室も兼ねた社員会館も完成し、年内にはクリーンルームを主体とした効率のよい組立工場が完成する。更に業績の安定と拡大の夢を追いつける所存です。